

令和6年8月15日

亀山市議会議長 森 美和子 様

## 調査研究報告書

会 派 名	高島 真
報 告 議 員 名	高島 真
調 査 日	7月30日
調 査 目 的 等	有害鳥獣対策について 鳥取市鳥獣減溶化処理施設について
<b>研修の概要</b> <p>○背景等 鳥取市は、有害鳥獣の捕獲頭数と焼却頭数が増加する中、使用していた焼却施設が令和4年3月末で閉鎖することが決定したことから、交付金を活用して、令和4年4月1日より、新たに旧国府町クリーンセンター跡の建物を利用し、これまでは焼却場で焼却処理を行ってきたが、捕獲した有害鳥獣を微生物等で分解する減容化施設鳥獣減溶化処理施設を整備した。この施設は、切断も解体もせずにそのまま処理が可能となっており、処理後も骨がほとんど残らない。捕獲従事者が有害鳥獣を直接搬入し、処理装置で処理する。その日に処理できなかったものは、当初は一時冷凍保管していたが、設備の破損が散発し、冷蔵保存に切り替えている。 また、この施設では捕獲確認業務も併せて行っている。</p> <p>○事業内容 減容化施設 1式 (分解処理装置2台、大型冷蔵庫2台) 処理能力 240KG/1日</p> <p>○整備費：108,727千円 備品購入費：106,704千円</p> <p>○運営体制：市の職員2名常駐 職員休暇に伴うパート1名</p> <p>○年間運営経費： 令和4年度決算額 16,638千円 令和5年度決算額 19,074千円 令和6年度予算額 21,557千円</p>	

(続紙)

○有害鳥獣による被害状況について  
イノシシ、シカ、クマ、サル等による被害は、平成31年度と比較すると令和5年度は約10分の1の被害額となっている。

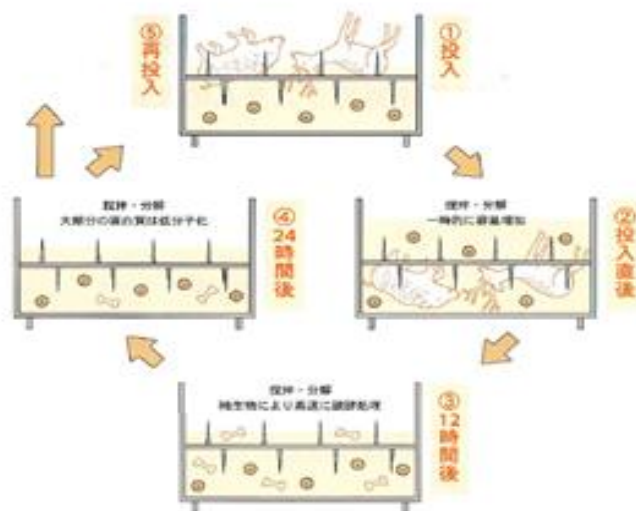
○捕獲の現状と防護及び防除等の取組状況について  
イノシシ、シカの主な対策としては、侵入防止柵と捕獲用具の一体的な管理運用によって効率的な捕獲を行っている。  
また、令和5年度はICTを活用したスマート檻罠、鳥獣捕獲確認システムを導入し、省力化、効率化を図っている。  
そのほか、鳥獣生息、被害対策の実施状況や捕獲情報等をマッピングし、それに基づき効率的な捕獲対策を行っている。

○鳥獣被害対策実施隊の取組について  
隊員は、猟友会から推薦された市の非常勤職員50名と市職員20名で、主な職務は市街地で出没した鳥獣の緊急捕獲、追払いなどを行っており、報酬は出勤に応じて支払う。(半日5,000円)

○捕獲後の獣肉等の処理及び利活用について  
食肉加工施設は4施設あり、民間が運営し、学校給食、レトルトカレー、飲食店での提供と土産店での販売を行っている。

○減容化処理施設整備の経過等について  
これまでは清掃工場で焼却処分していたが老朽化により、新施設となったが、有害鳥獣の処理については別途整備することになった。  
焼却施設として別途設置するには市民の同意もいる中で困難であり、整備のコストと時間がないことから、利用できる施設がないか探して減容化施設の整備を進めることとした。  
閉鎖された施設が3施設あったため、国府町の旧クリーンセンターが立地が困難であり、整備する運びとなった。

### 有害捕獲鳥獣処理工程



(続紙)

【メリット】

1. 合併後の設備を再利用（初期投資抑制）
2. 切断、解体せずに処理が可能（骨も殆ど残らない）
3. 処理場が、人家から離れているため臭気問題が無い。

【デメリット】

1. 市の職員2名配置のため、人件費が必要となる（約800万円）
2. 捕獲して、解体後の残渣や腐敗している個体は持込み不可である。  
(細菌が死滅しチップを総入れ替えすることになる。1基につき45万円必要)
3. 捕獲頭数の割には、持込数が少ない（ジビエ肉に利用）  
令和5年度捕獲状況：猪27.2%、鹿42.5%



分解処理装置



投入作業の様子



分解処理装置内部



保管用大型冷蔵庫

(続紙)

【所感】

鳥獣減容化処理施設は、処理の過程における臭気の課題があると考えていたが、鳥取市の場合は、処理場が人家から離れているため問題はないとのことであった。特に夏場は、臭気が発生しやすいため焼却処分の方が、環境面においても優れていると感じた。しかし、腐敗している個体の処理や解体後の残渣は持ち込み不可となっていることから、解体した場合の後処理に課題もある。

昨年度に行政視察を行った福井県大野市の鳥獣減容化処理施設と比較すると、大野市の場合は猟友会メンバーで対応しているが、鳥取市の場合は、施設の運営において、市職員が配置されており、人件費が発生している。

ほかにも鳥取市内に県立射撃場が有るため、猟期前練習が容易に行えるようになっていることは対策を進める中で重要であると感じた。

本市において、獣肉加工施設や捕獲鳥獣処理施設の整備については課題が多いと思うが、捕獲鳥獣処理については検討が必要であると考えます。

今後、どのように処理していくかを含め、有害鳥獣対策に取り組みを進めていくために、さらなる調査研究を行い、本市としてどのように取り組んでいくのか総合的に検討していく必要があると感じた。



鳥取市鳥獣減容化施設にて